

# 建築構法

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築構法は、建築物の構成やしくみを建築の実体を通じて学ぶ分野である。本講義は、建築構法の視点から、建築設計に必要な初歩的知識を修得することを目的とする。講義では、現代社会において資源循環や地産地消など環境意識の高まりの中で着目される木造建築に焦点を当て、戦後日本の住宅作品や大規模木造建築の事例から解説し、木材の有効活用に関する知識を深める。加えて、木造建築の構造計画に関する演習や実際の建築の見学を通じてその概要を学ぶ。さらに、北方型住宅や現代建築における構法について概観することで、建築構法の視点からデザインをとらえる視座を得る。

■**到達目標**：①建築構法の概要を理解する。  
②木造建築の特徴を理解する。  
③各部構法の特徴を理解する。

■**担当教員**：

金子 晋也

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 建築構法について
- 第 2 回 建築工事のながれ
- 第 3 回 木材、木の性質
- 第 4 回 架構とデザインについて①
- 第 5 回 架構とデザインについて②
- 第 6 回 建築の再生・活用と構法
- 第 7 回 木造建築の構造計画
- 第 8 回 木造建築の構造計算（演習）
- 第 9 回 木造建築の軸組①
- 第10回 木造建築の軸組②
- 第11回 各部構法
- 第12回 北方型住宅の構法
- 第13回 現代建築における構法の展開
- 第14回 木構造・鉄筋コンクリート構造・鋼構造の実際（見学会1）
- 第15回 木構造・鉄筋コンクリート構造・鋼構造の実際（見学会2）

■**教科書**：『建築構造』／青木博文他（実教出版）

『建築構造用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円

■**参考文献**：『建築構法 第五版』内田祥哉編著（市ヶ谷出版社）

『建築材料用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円

■**成績評価基準と方法**：レポート（60%）、授業態度等（20%）、課題（20%）により総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・レポート	◎	◎	◎	構法の特徴を論述することができる。	60
授業態度	○	○	○	授業中の質問への返答	20
発表					
課題・作品	○	○	○	課題の提出状況、内容	20
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他	○	○	○	見学会における態度	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：構造・材料実験（3年次 後期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：建築構法は、建築物の構成やしくみについて、座学だけでなく図面や模型の作成、実際の建築の見学を通じて学びます。本講義で得た視点を、各自のデザインに反映させる事を期待します。